

『又もや不信・不透明の木津川上流河川事務所！』

05.8.21

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

意見書 No. 598 『岩倉峡の疎通量のことについて嘘をつき続けるのか』(05.8.1) の中で、598-4 頁に観測流量表を示し、それ迄 22 年間の観測実績のデータを基に、河川管理者自身が不等流計算をし、導き出した水位 - 流量数値〔H5-1 10.50 (m) - 3,630.61 (m³ / s)〕が記載されていることを指摘した。

この平成 5 年の観測流量表は、私の要求に対し、当初、「河道断面が変わっているのに、平成 5 年以前の観測流量表は使用していません。」との理由で、隠されようとした経緯がある。強い要求で出さざるを得なかった。

昨日、8 月 20 日、淀川水系流域委員会木津川上流部会が名張市で開かれた。

終了後、木津川上流河川事務所長 谷崎氏が私に対談を求めた。

「上記、不等流計算書を探したが、見つからない。その為、どのような条件で計算したのか判らないが、今、不等流で計算してみると、あの数値はマチガッていると思うので、今後使わないで貰いたい。」ということが主用件であった。

官庁という所は、公文書の蓄積で成り立っていると言える。観測流量表に計算数値がある場合は、計算書が必ず添付されていなければならない。ズサン管理か、故意のインペイかは、今は知らない。が「今、不等流計算をやり直して確かめようとしている。学者先生（現、流域委員を含む）に監修して貰ってから示したい。」ということであったが、現、流域委員は公平な立場を維持する為、委員会に提出される迄は一切手伝ってはならない事をご承知のことと思う次第である。

このようなテイタラクの河川管理者を、さてどう見るべきか？！